

vSphere ホスト プロファイル

Update 1

VMware vSphere 6.0

VMware ESXi 6.0

vCenter Server 6.0

このドキュメントは新しいエディションに置き換わるまで、ここで書いてある各製品と後続のすべてのバージョンをサポートします。このドキュメントの最新版をチェックするには、<http://www.vmware.com/jp/support/pubs> を参照してください。

JA-001800-03

vmware[®]

最新の技術ドキュメントは VMware の Web サイト (<http://www.vmware.com/jp/support/>) にあります
VMware の Web サイトでは最新の製品アップデートも提供されています。

このドキュメントに関するご意見およびご感想がある場合は、docfeedback@vmware.com までお送りください。

Copyright © 2009–2017 VMware, Inc. 無断転載を禁ず。著作権および商標情報。

VMware, Inc.
3401 Hillview Ave.
Palo Alto, CA 94304
www.vmware.com

VMware株式会社
105-0013 東京都港区浜松町 1-30-5
浜松町スクエア 13F
www.vmware.com/jp

目次

vSphere® ホスト プロファイルについて	5
更新情報	7
1 ホスト プロファイルの使用	9
ホスト プロファイルの使用モデル	10
リファレンス ホストの独立性	10
ホスト プロファイルへのアクセス	11
ホスト プロファイルの作成	11
エンティティをホスト プロファイルに添付します	11
ホスト プロファイルからのエンティティの分離	12
コンプライアンスの確認	12
ホストの修正	13
ホスト プロファイルの編集	13
ホスト プロファイルの複製	16
ホストから設定をコピー	17
ホスト プロファイルと vSphere Auto Deploy	17
ホスト プロファイルのインポート	17
ホスト プロファイルのエクスポート	18
インデックス	19

vSphere® ホスト プロファイルについて

『vSphere ホスト プロファイル』ドキュメントには、ホスト プロファイルの管理に関する情報が記載されています。

『vSphere ホスト プロファイル』ドキュメントには、次を実行する方法が説明されています。

- ホスト プロファイルの作成
- ホスト プロファイルのエクスポートおよびインポート
- ホスト プロファイル ポリシーの編集
- ホスト プロファイルへのエンティティの添付
- ホスト プロファイルに添付されたエンティティへのホスト プロファイルの適用
- ホスト プロファイルに添付されたエンティティに対するホスト プロファイルのコンプライアンスの確認
- ホストのカスタマイズの表示および更新

対象読者

『vSphere ホスト プロファイル』ドキュメントは、vSphere のホストの構成に精通する管理者を対象としています。

更新情報

『vSphere ホスト プロファイル』は、製品のリリースごとに、または必要に応じて更新されます。

『vSphere ホスト プロファイル』の更新履歴については、次の表をご確認ください。

リビジョン	説明
JP-001800-03	「ポリシーの編集 (P. 14)」 : 時刻設定に関する情報を修正。
JP-001800-02	第 1 章「ホスト プロファイルの使用 (P. 9)」 : ESXi 6.0 ホストから抽出されたホスト プロファイルが ESXi 5.5 以前のホストと互換性を持たないことを示す注意事項を追加。
JP-001800-01	「リファレンス ホストの独立性 (P. 10)」 : リファレンス ホストの独立性機能について記載するためにトピックを追加。
JP-001800-00	初期リリース。

ホスト プロファイルの使用

ホスト プロファイル機能を使用してプロファイルを作成します。このプロファイルはホスト構成をカプセル化します。特に管理者が vCenter Server で複数のホストまたはクラスタを管理する環境で、ホストの構成を管理する場合に役立ちます。

ホスト プロファイルを使用することで、ホスト構成と構成コンプライアンスに応じて自動化および統合管理されたメカニズムを使用できます。ホスト プロファイルを使用すると、反復的な手動タスクが減少するため、効率性が高まります。ホスト プロファイルは事前に構成され、検証されたリファレンス ホストの構成を取得して、管理対象オブジェクトとして構成を保存します。ホスト プロファイルに含まれているパラメータのカタログを使用して、ネットワーク、ストレージ、セキュリティ、およびその他のホスト レベルのパラメータが設定されます。ホスト プロファイルは個々のホストに適用することも、1つのクラスタに適用することもできます。ホスト プロファイルを1つのクラスタに適用すると、そのクラスタ内のすべてのホストが対象となるため、クラスタ内のすべてのホストに一貫した設定を適用することができます。

ホスト プロファイルでは、ホストまたはクラスタを関連付けられたホスト プロファイルと比較することで、ホストの構成のコンプライアンスを検証できます。

注意 以前に ESXi 5.5 ホストから抽出されたホスト プロファイルは、vSphere 6.0 へのアップグレード後も機能します。ただし、ESXi 6.0 ホストから抽出されたホスト プロファイルは、ESXi 5.5 以前のホストと互換性がありません。

この章では次のトピックについて説明します。

- [ホスト プロファイルの使用モデル \(P. 10\)](#)
- [リファレンス ホストの独立性 \(P. 10\)](#)
- [ホスト プロファイルへのアクセス \(P. 11\)](#)
- [ホスト プロファイルの作成 \(P. 11\)](#)
- [エンティティをホスト プロファイルに添付します \(P. 11\)](#)
- [ホスト プロファイルからのエンティティの分離 \(P. 12\)](#)
- [コンプライアンスの確認 \(P. 12\)](#)
- [ホストの修正 \(P. 13\)](#)
- [ホスト プロファイルの編集 \(P. 13\)](#)
- [ホスト プロファイルの複製 \(P. 16\)](#)
- [ホストから設定をコピー \(P. 17\)](#)
- [ホスト プロファイルと vSphere Auto Deploy \(P. 17\)](#)
- [ホスト プロファイルのインポート \(P. 17\)](#)
- [ホスト プロファイルのエクスポート \(P. 18\)](#)

ホスト プロファイルの使用モデル

ホスト プロファイルのワークフローは参照ホストの概念から開始します。参照ホストは、ホスト プロファイルの抽出元となるテンプレートとして機能します。指定参照ホスト、およびそのホストへのホスト プロファイルの関連付けは、ホスト プロファイルの作成後も維持されます。

開始する前に、少なくとも 1 つのプロパティと完全に構成されたホストを持つ、既存の vSphere インストール済み環境を用意しておく必要があります。

参照ホストからホスト プロファイルを作成し、そのホスト プロファイルをホストまたはクラスタに適用して、ホスト プロファイルに対してコンプライアンスを確認するために必要な順序は次のとおりです。

- 1 参照ホストを設定して、構成します。
- 2 参照ホストからホスト プロファイルを作成します。
- 3 他のホストまたはクラスタをホスト プロファイルに添付します。
- 4 ホスト プロファイルに対してコンプライアンスを確認します。参照ホストと準拠しているホストはすべて正しく構成されています。
- 5 適用（修正）します。

vSphere のライセンスが供与された機能として、ホスト プロファイルは適切なライセンスがある場合のみ使用できます。エラーが発生する場合は、適切な vSphere のライセンスがホストにあることを確認してください。

ホスト プロファイルで認証にディレクトリ サービスを使用する場合は、ディレクトリ サービスを使用するように参照ホストを構成する必要があります。『vSphere セキュリティ』ドキュメントを参照してください。

vSphere Auto Deploy

vSphere Auto Deploy でプロビジョニングされたホストの場合、vSphere Web Client はホスト プロファイルで取得されるホスト構成全体を所有しています。ほとんどの場合、構成情報をすべて保存するにはホスト プロファイル情報が十分です。Auto Deploy でプロビジョニングしたホストが起動する際、ユーザーの入力が求められる場合があります。Auto Deploy の詳細については、『vSphere のインストールとセットアップ』ドキュメントを参照してください。

リファレンス ホストの独立性

ホスト プロファイルのタスクを実行するために専用のリファレンス ホストを使用する必要はありません。

ホスト プロファイルを作成する場合は、指定した ESXi リファレンス ホストから構成情報を抽出します。vSphere の以前のリリースでは、編集、インポート、エクスポートなど、ホスト プロファイルの特定のタスクを実行する場合、リファレンス ホストを使用する必要がありました。vSphere 6.0 では、これらのタスクを実行するために専用のリファレンス ホストを使用する必要はなくなりました。

リファレンス ホストが必要なホスト プロファイル タスクの場合は、ホスト プロファイルと互換性のある ESXi ホストが割り当てられ、リファレンス ホストの役割を果たします。

場合によっては、これらのタスクの実行中に検証を行う、互換性のあるホストが利用できないことがあります。検証が不要なホスト プロファイルにわずかな変更を加えた場合は、検証をスキップすることができます。ホスト検証をスキップするよう選択した場合は、有効なリファレンス ホストがプロファイルに関連付けられていないことを示す警告が表示されます。その後、処理を進めて、タスクを完了できます。

この機能が導入されたことで、ユーザーは vSphere Web Client からリファレンス ホストを編集または変更できなくなりました。リファレンス ホストの選択は実行時に行われ、進行中のタスクに関する通知は vCenter Server に表示されません。

ホスト プロファイルへのアクセス

ホスト プロファイルのメイン ビューには、使用できるプロファイルがすべて一覧で表示されます。システム管理者は、ホスト プロファイルのメイン ビューを使用して、ホスト プロファイルでの操作の実行やプロファイルの構成を行うこともできます。

手順

- 1 vSphere Web Client のホームで、[ポリシーおよびプロファイル] をクリックします。
- 2 [ホスト プロファイル] をクリックします。

ホスト プロファイルの作成


指定した参照ホストの構成を抽出してホスト プロファイルを新規作成します。

注意 特定のホストまたはクラスタに移動してホスト プロファイルを抽出することもできます。

開始する前に

機能している vSphere インストールと、参照ホストとして機能するように、正しく、完全に構成されたホストが少なくとも 1 つあることを確認します。

手順

- 1 ホスト プロファイル ビューに移動します。
- 2 [ホストからプロファイルを抽出] アイコン () をクリックします。
- 3 参照ホストとして機能するホストを選択し、[次へ] をクリックします。
選択したホストは有効なホストであることが必要です。
- 4 新しいプロファイルの名前および説明を入力して、[次へ] をクリックします。
- 5 新しいプロファイルの概要情報を確認し、[終了] をクリックします。


新しいプロファイルがプロファイル リストに表示されます。

注意 ホスト プロファイルは、オフラインまたは認識されないデバイスをキャプチャしません。ホスト プロファイルの抽出後にオフライン デバイスを変更しても、コンプライアンス チェック結果に違いは生じません。

エンティティをホスト プロファイルに添付します

参照ホストからホスト プロファイルを作成した後、ホスト プロファイルにホストまたはクラスタを添付する必要があります。

手順

- 1 ホスト プロファイルのメイン ビューのプロファイル リストから、ホストまたはクラスタに適用するホスト プロファイルを選択します。
- 2 [[ホスト プロファイルへのホストおよびクラスタの添付/分離] アイコン () をクリックします。
- 3 展開されたリストからホストまたはクラスタを選択し、[適用] をクリックします。
添付されたエンティティのリストにホストまたはクラスタが追加されます。
- 4 (オプション) 表示されたすべてのホストおよびクラスタをプロファイルに添付するには、[すべて添付] をクリックします。
- 5 [次へ] をクリックします。

- 6 (オプション) ホスト プロファイル ポリシーのユーザー入力パラメータを更新または変更するには、ホストをカスタマイズします。

[「ホスト プロファイルと vSphere Auto Deploy \(P. 17\)」](#) を参照してください。


- 7 [終了] をクリックして、ホストまたはクラスタのプロファイルへの添付を完了します。

ホスト プロファイルからのエンティティの分離

ポリシー管理構成をホストまたはクラスタから削除するには、そのホストまたはクラスタをホスト プロファイルから分離する必要があります。

ホスト プロファイルがクラスタに添付されている場合、そのクラスタ内のホストもホスト プロファイルに添付されます。しかし、ホスト プロファイルがクラスタから分離されても、ホストまたはクラスタ内のホストと、ホスト プロファイルの関連付けはそのまま残ります。


手順

- 1 ホスト プロファイルのメイン ビューにあるプロファイル リストから、ホストまたはクラスタから分離するホスト プロファイルを選択します。
- 2 [[ホスト プロファイルに対するホストおよびクラスタの添付/分離] アイコン ()] をクリックします。
- 3 展開されたリストからホストまたはクラスタを選択し、[分離] をクリックします。
添付されたエンティティのリストにホストまたはクラスタが追加されます。
- 4 (オプション) [すべて分離] をクリックして、リストされたすべてのホストとクラスタをプロファイルから分離します。
- 5 [次へ] をクリックします。
- 6 [終了] をクリックして、ホストまたはクラスタのプロファイルへの添付を完了します。

コンプライアンスの確認

ホストまたはクラスタの添付されたホスト プロファイルへのコンプライアンスを確認したり、ホストとホスト プロファイルで指定された構成パラメータに違いがある場合にはそのパラメータを特定したりできます。

手順

- 1 ホスト プロファイルに移動します。
[オブジェクト] タブにはすべてのホスト プロファイル、ホスト プロファイルに添付されたホストの数、前回のコンプライアンス チェックの結果の概要が一覧表示されます。
- 2 [ホスト プロファイル コンプライアンスの確認] アイコン () をクリックします。

[オブジェクト] タブで、コンプライアンス ステータスが、「準拠」、「不明」、または「非準拠」のいずれかに更新されます。

「非準拠」ステータスは、プロファイルとホスト間での特定の不整合が検出されたことを示します。これを解決するには、ホストを修正する必要があります。「不明」ステータスは、ホストのコンプライアンスを確認できなかったことを示します。この問題を解決するには、ホスト プロファイルを使用してホストを修正します。

注意 ホスト プロファイルは、オフラインまたは認識されないデバイスをキャプチャしません。ホスト プロファイルの抽出後にオフライン デバイスを変更しても、コンプライアンス チェック結果に違いは生じません。

次に進む前に

コンプライアンスのエラーの詳細については、[オブジェクト] タブから前回のコンプライアンス チェックで 1 つ以上エラーが見つかったホスト プロファイルを選択します。コンプライアンス エラーのあるホストとホスト プロファイルとの間で異なるパラメータを詳細に表示するには、[監視] タブをクリックし、[コンプライアンス] ビューを選択します。次にオブジェクト階層を展開し、エラーのあるホストを選択します。異なっているパラメータが階層の下の [コンプライアンス] ウィンドウに表示されます。

ホストの修正

コンプライアンス障害が発生した場合、修正機能を使用してホスト プロファイル設定をホストに適用します。この処理によって、すべてのホスト プロファイル管理対象パラメータは、ホストに添付されたホスト プロファイルに含まれている値に変更されます。

開始する前に

ホストにプロファイルが関連付けられていることを確認します。

手順

- 1 ホストに対して修正するプロファイルに移動します。
- 2 [監視] タブを選択し、[コンプライアンス] をクリックします。
- 3 修正するホスト (複数可) を右クリックして、[ホスト プロファイル]-[修正] を選択します。

注意 特定のホスト プロファイルのポリシー構成では、修正後にホストを再起動する必要があります。そのような場合は、ホストをメンテナンス モードにすることを求められます。

- 4 (オプション) ホスト プロファイル ポリシーのユーザー入力パラメータを更新または変更するには、ホストをカスタマイズして [次へ] をクリックします。

vSphere Auto Deploy の詳細については、「[ホスト プロファイルと vSphere Auto Deploy \(P. 17\)](#)」を参照してください。

- 5 ホスト プロファイルの修正に必要なタスクを確認し、[終了] をクリックします。

コンプライアンス ステータスが更新されます。

ホスト プロファイルの編集

ホスト プロファイルのポリシーの表示および編集、コンプライアンスを確認するポリシーの選択、およびポリシーの名前や説明の変更ができます。

手順

- 1 編集するホスト プロファイルに移動し、[管理] タブをクリックします。
- 2 [Edit Host Profile] をクリックします。
- 3 (オプション) プロファイルの名前と説明を変更して [次へ] をクリックします。
- 4 プロファイル ポリシーを変更します。

ホスト プロファイル ポリシーを編集する詳細な手順については、「[ポリシーの編集 \(P. 14\)](#)」を参照してください。コンプライアンス チェックや修正に対してポリシーを有効または無効にする詳細な手順については、「[ホスト プロファイル コンポーネントの無効化 \(P. 16\)](#)」を参照してください。

- 5 (オプション) ホストをカスタマイズします。
このプロファイルの使用可能な構成値を変更します。
- 6 [終了] をクリックします。

[最近のタスク] ステータスで「ホスト プロファイルを更新します」タスクが完了したら、変更が実行されます。タスクの完了前にプロファイルの修正を試みると、プロファイル構成には変更が反映されません。

ポリシーの編集

ポリシーには、特定の設定を適用する方法が記述されています。特定のホスト プロファイルに含まれるポリシーを編集できます。

ホスト プロファイルを編集するときに、ホスト プロファイル構成の階層を展開して、ホスト プロファイルを構成するサブプロファイルのコンポーネントを表示できます。特定のパラメータを見つけやすくするため、これらのコンポーネントは機能グループやリソース クラスごとに分類されています。各サブプロファイル コンポーネントには、ポリシーやコンプライアンス チェックのほか、1 つ以上の属性やパラメータが含まれます。

各ポリシーは 1 つ以上のオプションで構成され、各オプションには 1 つ以上のパラメータが含まれています。各パラメータは 1 つのキーと 1 つの値で構成されます。値は、integer 型、string 型、string 配列、または integer 配列などの基本的な型のいずれかになります。

注意 現在、このリリースで廃止されたポリシー オプション、ポリシー、サブプロファイルを削除または置き換える方法がありません。古いホスト プロファイルを引き続き使用できるように、これらの廃止されたポリシーにメタデータが追加されていますが、ホスト プロファイルの廃止されていない部分のみを使用して新しいホスト プロファイルが抽出されます。

表 1-1. ホスト プロファイル サブプロファイル構成のサブセット

コンポーネント カテゴリ	設定	注記および例
詳細設定	詳細オプション、エージェント仮想マシン、DirectPath I/O、ホスト ファイル、電力システム、システム イメージ キャッシュ	<ul style="list-style-type: none"> ■ 詳細設定がデフォルト設定と同じ場合、ホスト プロファイルでは詳細設定はチェックされません。vCenter Server では、変更された、またはデフォルト値とは異なる詳細設定だけがコピーされます。さらに、コンプライアンス チェックの対象は、コピーされた設定に限定されます。 ■ ホスト プロファイルでは、ESXi ホスト上の仮想マシン バススルーに対する PCI デバイスの構成はサポートされません。
CIM インディケーションのサブスクリプション	CIM-XML インディケーションのサブスクリプション	
全般システム設定	コンソール、コア ダンプ、デバイス エイリアス、ホスト キャッシュ、カーネル モジュール、管理エージェント、システム リソース プール、システム スワップ、vFlash ホスト スワップ キャッシュ	<p>日時の設定：</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ タイムゾーンに UTC 文字列を入力します。たとえば、米国の太平洋タイムゾーンの場合、「America/Los_Angeles」と入力します。 ■ デフォルトのタイムゾーンは、vSphere Web Client マシンのローカルの時刻と場所に設定されます。 ■ ネットワーク時間プロトコル (NTP) を正しく設定します。NTP は、ホストの [管理] タブで設定できます。[設定] をクリックし、[システム] の [時間の設定] をクリックします。[編集] をクリックして時刻設定を行います。
ネットワーク	vSwitch、ポートグループ、物理 NIC の速度、セキュリティと NIC チューニングのポリシー、vSphere Distributed Switch、および vSphere Distributed Switch のアップリンクポート。	ネットワーク サブプロファイルで DHCPv6 が有効な場合は、ファイアウォール サブプロファイルにある対応するルールセットを手動で有効にしてください。

表 1-1. ホスト プロファイル サブプロファイル構成のサブセット (続き)

コンポーネント カテゴリ	設定	注記および例
セキュリティ	ファイアウォール、セキュリティ設定、サービス	
ストレージ	NMP (ネイティブマルチパス)、PSA (プラグ可能ストレージアーキテクチャ)、FCoE および iSCSI アダプタ、NFS ストレージを含めたストレージ オプションを構成します。	<ul style="list-style-type: none"> ■ vSphere CLI を使用して、リファレンス ホストで NMP および PSA ポリシーを設定または変更し、そのホストからホスト プロファイルを抽出します。プロファイル エディタを使用してポリシーを編集する場合は、コンプライアンスに準拠しない事態を避けるために、NMP ポリシーと PSA ポリシー間の相互関係、個々のポリシーを変更したことで生じる結果について理解しておく必要があります。NMP および PSA の詳細については、[vSphere ストレージ] ドキュメントを参照してください。 ■ リファレンス ホストからホスト プロファイルを抽出する前にデバイス属性を変更するルールを追加します。ホスト プロファイルにホストを添付した後、デバイスのパスをマスクしたり、デバイスを SSD としてマークする SATP ルールを追加するなど、プロファイルを編集してデバイス属性を変更する場合は、変更を適用するためにホストを再起動するように促すメッセージが表示されます。ただし、属性が変わったため、再起動後、コンプライアンスに準拠しない事態が起こります。再起動前にホスト プロファイルがデバイスの属性を抽出するため、再起動の後に何らかの変化があると、それらの変化を特定して評価し、非準拠として報告します。

ほかのプロファイル構成のカテゴリには、ユーザー グループ、認証、カーネル モード、DCUI キーボード、ホスト キャッシュ設定、SFCB、リソース プール、ログイン パナー、SNMP エージェント、電力システム、および CIM インディケーション サブスクリプションがあります。

手順

- 1 ホスト プロファイルを編集します。
- 2 編集するポリシーに到達するまで、サブプロファイルを展開します。
- 3 ポリシーを選択します。
ポリシーのオプションとパラメータが[ホスト プロファイルの編集] ウィンドウの右側に表示されます。
- 4 ポリシーに変更を加えます。

ストレージ ホスト プロファイルの構成

クラスター間で共有されていないが vSphere ストレージ スタックがローカルとして検出できないストレージ デバイスを使用する場合、ホスト プロファイルの適用時にコンプライアンス エラーが発生する可能性があります。

共有されていないストレージ デバイスを使用することで発生したコンプライアンス エラーを解決するには、アップグレードしたプラグイン可能なストレージアーキテクチャ (PSA) およびネイティブ マルチパス プラグイン ホスト プロファイル ポリシーを使用します。

注意 **vm-support** コマンドを実行して取得する ESXi 診断データには、ストレージ ホスト プロファイル、PSA、NMP、仮想ボリューム データなどのホスト プロファイル情報が含まれます。パスワードなどの機密情報は収集されません。

開始する前に

参照ホストからホスト プロファイルを抽出します。構成方法については、「[ホスト プロファイルの作成 \(P. 11\)](#)」を参照してください。

手順

- ローカルとして検出されない SAS デバイスの場合、[ストレージ構成]-[プラグイン可能なストレージアーキテクチャ (PSA) 構成]-[PSA デバイス共有]-[<デバイス名>] を選択します。
- クラスタ全体で共有されていない各デバイスで、[デバイスがクラスタ全体で共有されています] を無効にします。
PSA デバイスの [Is Shared Clusterwide] 値を使用すると、ホスト プロファイルで構成する必要があるクラスタ内のデバイスを特定するのに便利です。この値をクラスタ内のデバイスに正しく設定すると、非共有デバイスに起因する準拠エラーが排除されます。
デフォルトでは、この値は、デバイスの [Is Local] 設定を反映するために設定されます。たとえば、[Is Local] が [True] に設定されたデバイスがあるとします（この設定はデフォルトで無効です）。このように設定されたデバイスは、コンプライアンスの検証でストレージ ホスト プロファイルによって無視されます。
ESXi Shell で `esxcli storage core device list` コマンドを実行すると、デバイスの [Is Local] 設定を見つけることができます。このコマンド、およびディスクまたは LUN を識別する方法の詳細については、<http://kb.vmware.com/kb/1014953> を参照してください。
- SAN 起動 LUN に対して [Is Shared Clusterwide] を無効にしないでください。ESXi 6.0 では、SAN 起動 LUN デバイスは、期待どおりに処理されます。これらのデバイスに対して [Is Shared Clusterwide] が無効になっていると、以前のリリースの SAN 起動 LUN デバイスを原因とする準拠エラーは発生しませんが、クラスタ内の他のホストにデバイス構成が適用されません。[ストレージ構成]-[プラグイン可能なストレージアーキテクチャ (PSA) 構成]-[ホストの起動デバイスの構成] を選択し、この LUN が正しくキャプチャされていることを確認します。
- 共有状態の変更が参照ホストに反映されるように、参照ホストのプロファイルを修正します。
プロファイルを再抽出する必要がある場合（共有 SAN 起動 LUN をクラスタに追加する場合など）、以前に構成したデバイスの共有を再構成する必要はありません。

ホスト プロファイル コンポーネントの無効化

コンプライアンス チェック中に、ホスト プロファイル コンポーネントを適用または考慮するかどうかを指定できます。これにより、システム管理者は、重要度の低い属性の考慮を排除したり、ホスト プロファイルの一部がホスト間で変化する可能性のある値を無視したりすることができます。

手順

- ホスト プロファイルを編集します。
- 目的のコンポーネントまたはコンポーネント要素に達するまで、ホスト プロファイル コンポーネントの階層を展開します。
- 修正中に適用しないコンポーネントまたはプロファイルのコンプライアンス チェック中に考慮しないコンポーネントの横にあるチェックボックスを無効にします。

注意 チェック ボックスは、デフォルトで有効になっています。チェック ボックスを無効にしてこのコンポーネントまたはコンポーネント要素のコンプライアンスの確認または適用を修正中に行わないようにした場合でも、コンプライアンス チェックが有効になっている別のポリシーは適用または確認されます。

ホスト プロファイルの複製

ホスト プロファイルの複製は、既存のホスト プロファイルのコピーです。

手順

- 複製するプロファイルに移動します。
- [ホスト プロファイルの複製] アイコン (📄) をクリックします。
- 重複するホスト プロファイルの名前および説明を入力し、[次へ] をクリックします。
- 新しいプロファイルの概要情報を確認し、[終了] をクリックします。

プロファイルのクローンがホスト プロファイル リストに表示されます。

ホストから設定をコピー

参照ホストの構成が変更された場合、参照ホストの新しい構成と一致するようにホスト プロファイルを更新できます。

ホスト プロファイルを作成した後、プロファイルを段階的に更新できます。ホスト プロファイルに変更を加える場合は、次の 2 つの方法の利点と制限を検討してください。

- vSphere Web Client のホストの構成を変更し、そのホストの設定をプロファイルにコピーする。既存のプロファイル内の設定は、ホストの設定と一致するように更新されます。この方法を使用すると、プロファイルに添付されている他のホストに構成をロールする前に、単一ホスト上の構成を検証できます。
- ホスト プロファイルを編集して、プロファイルを直接更新する。この方法では、より包括的にすばやく変更を修正できます。

手順

- 1 ホスト プロファイルに移動します。
- 2 [ホストから設定をコピー] をクリックします。
- 3 構成設定のコピー元となるホストを選択します。
- 4 [OK] をクリックします。

ホスト プロファイルと vSphere Auto Deploy

ホスト プロファイルは、vSphere Auto Deploy と連動し、仮想スイッチ、ドライバ設定、起動パラメータなどの構成状態が完全で予想通りの物理 ESXi ホストをプロビジョニングします。

Auto Deploy でプロビジョニングされたホストはステートレスと見なされるため、構成状態の情報はホストに保存されません。代わりに、参照ホストを作成して希望の設定で完全に構成します。次に、この参照ホストを使用してホスト プロファイルを作成します。次に、PowerCLI で Auto Deploy ルール エンジンを使用してホスト プロファイルを新しいデプロイ ルールに関連付けます。これで、新しいホストが Auto Deploy を通してプロビジョニングされると、自動的にホスト プロファイルが適用されるようになります。

これらのホストへの修正は、ステートフルにデプロイされたホストと同じです。ホスト プロファイルの適用時に、ユーザーは、ホストをカスタマイズしホスト プロファイルの作成中に指定されるポリシーへの応答を入力するように求められます。

注意 Auto Deploy を介して ESXi をデプロイする場合は、ログをリモート サーバに保存するように syslog を構成します。手順については、『vSphere のインストールとセットアップ』ドキュメントの「ホスト プロファイル インターフェイスからの syslog の設定」を参照してください。


詳細については、vSphere Auto Deploy ドキュメントの「Auto Deploy の参照ホストの設定」を参照してください。

ホスト プロファイルのインポート

プロファイルは、VMware プロファイル形式（.vpf）のファイルからインポートできます。

ホスト プロファイルをエクスポートしても、管理者およびユーザー プロファイルのパスワードはエクスポートされません。このセキュリティ措置により、プロファイルをエクスポートしたときにパスワードがプレーン テキストにエクスポートされることがなくなります。プロファイルをインポートしたあとにパスワードの値を再入力するよう求められ、それからパスワードがホストに適用されます。

手順

- 1 ホスト プロファイル ビューに移動します。
- 2 ホスト プロファイルのインポート アイコン () をクリックします。

- 3 [参照] をクリックし、インポートする VMware プロファイル形式のファイルを参照します。
- 4 インポートするホスト プロファイルの [名前] および [説明] を入力し、[OK] をクリックします。

インポートされたプロファイルがプロファイル リストに表示されます。

ホスト プロファイルのエクスポート

プロファイルは、VMware プロファイル形式 (.vpf) のファイルにエクスポートできます。

ホスト プロファイルをエクスポートしても、管理者およびユーザー プロファイルのパスワードはエクスポートされません。このセキュリティ措置により、プロファイルをエクスポートしたときにパスワードがプレーン テキストにエクスポートされることがなくなります。プロファイルをインポートしたあとにパスワードの値を再入力するよう求められ、それからパスワードがホストに適用されます。

手順

- 1 エクスポートするホスト プロファイルに移動します。
- 2 プロファイルを右クリックし、[ホスト プロファイルのエクスポート] を選択します。
- 3 プロファイルをエクスポートするファイルの場所を選択し、名前を入力します。
- 4 [保存] をクリックします。

インデックス

A

Auto Deploy 17

こ

更新情報 7

コンプライアンス チェック、ホスト プロファイル 16

さ

作成、ホスト プロファイル 11

す

ストレージ ホスト プロファイル 15

へ

編集

ホスト プロファイル 13

ホスト プロファイルのポリシー 14

ほ

ホスト プロファイル

アクセス 11

コンプライアンスの確認 12

参照ホストからの更新 17

使用モデル 10

プロファイルの修正 13

プロファイルの編集 13

ホスト プロファイルからのホストまたはクラスタの
分離 12

ホスト プロファイル ビューからの作成 11

ホスト プロファイルへのホストまたはクラスタの添
付 11

ポリシーの編集 14

ポリシーの無効化 16

ホスト プロファイル、プロファイルの複製 16

ホスト プロファイルのインポート 17

ホスト プロファイルのエクスポート 18

ホスト プロファイルの使用 9

む

無効化、ホスト プロファイル ポリシー 16

り

リファレンス ホスト 10

リファレンス ホストの独立性 10

